

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第142版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

変える場が必要



勉強会が子どもたちの発達にあった環境を用意する機会に

先日の弊社オンライン勉強会に参加された香川県の観音寺中部こども園の平井園長より、こんなお話をお聞きしました。「コロナ禍で外部研修に行けなくなったから、オンラインで研修を受けられるというのはすごく助かるんです。今回、0・1歳児、2歳児、3・4・5歳児の3グループで参加したので、全クラス環境を今の子どもたちの発達に合わせて変えるきっかけになったんですよ。皆で話し合い、変えていく良い機会になりました。」と。



念願の木工ゾーンから広がる様々な遊びが発達を促します。

ラインではその「深さ」は同様にとはいかないように思います。しかしオンラインには「同時に皆で聞いて取り組みやすい」という良さがあることを今回教えていただいたお陰で、「オンラインとオフラインのどっちが良いのか？」という疑問が晴れていきました。どちらにも良さがあり、それを活かしていく必要があるのだと感じます。「深さ」と「広さ」そのバランスを見出す時代に入って来たのかもしれないですね。



異文化に触れる
昨年の年間テーマは「世界」。1年間取り組まれてきた内容を写真を交えて発表して頂きました。保育を振り返ると「異文化」に通じるものがあつたと発表した先生方が仰っていました。

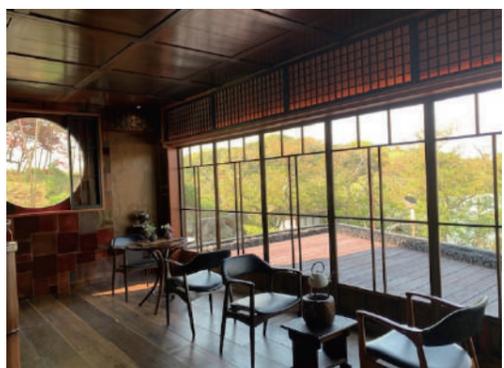
子どもたちへの見守る距離感がその時々で違うように、先生方への見守る距離感もまた時々によって違ってくるのだと思います。そう思うと、やはり研修の組み方もその時々先生方への状況に合わせて、オンラインとオフラインのバランスを考えていく必要があるように感じました。

世界が広がる



子どもたちが興味関心を抱ける環境づくり

上記で紹介しています勉強会の際に、お問い合わせを頂くことの多い「異文化」の項目について一つの事例をカグヤからご紹介しました。「ある国では、手を使って食事をしている人の写真をランチョールームに貼り、子ども自ら異文化に気付けるような環境を用意しているそうです」と。



不要とされた建具が「徳積堂カフェ」の天井や壁へ甦ります！

徳循環の場

この度、徳の循環から真に豊かな未来を創ることを願い、福岡県飯塚市に「徳積堂カフェ」がオープンしました。こちらのカフェでは、現代人が文明とともに捨ててきたもの、利益優先の中で不必要と選別してきたものを、もう一度拾い集め丹精を込めて修繕して場に甦生させました。

先日開催されたオープンイベントでは、「徳積堂カフェ」の紹介だけでなく、福永晋三先生をお招きし「筑豊の古代から風土の徳を掘り起こす」をテーマに講演をして頂きました。とても口マンを感じるとともに、改めて先人の方々のおかげで今の自分たちが存在し、更にそんな私たちも長い長い歴史のページをつくっている存在なのだと感じるものがありました。

「徳」に関しては、弊社でも6年程前から毎月、仲間の「徳の宝（陰徳の行い）」を投票し発表する取り組みが続いています。そうして居心地の良い職場や一人ひとりが安心する居場所をつくっていく文化を皆で築いている最中ですが、それでも「徳」の理解や行いは今でも簡単ではありません。ただ、自分さえよければ、この時代さえよければという不自然な意識ではなく、次の時代に活躍する子どもたちに、今より少しでも素晴らしいものを繋いでいけたらと思うものがあります。

せっかくですから、こちらの徳循環の場を通して自分たちも学ばせて頂きながら、次世代への希望ある社会実験を楽しんでみたいと思います。



「徳積堂カフェ」のホームページはこちらからご覧頂けます。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

協力・協働



社長も社員も関係なく本気で場作りに取り組んでいます！

大切な会議や、お客様のところへ伺い研修をする時など、開始前に場の雰囲気をつくるためにちょっとしたゲームのようなことを行っています。これをカグヤでは「アクティビティ」と呼んでいます。アクティビティの目的は「協力や協働の意識を引き出し、その後の会議などを円満に行う」こと。

ゲームといっても勝ち負けや順位を決めるような競争はせず、あくまでも「協力」を意識して行います。特に最近ではリモートワークによりオンライン上での会議が増えたことで、顔を合わせていた以上に相手を気遣ったり、協力の要素が求められているように思います。

コロナ以前は協力してゴールを目指すボードゲームなども取り入れていましたが、今はオンラインでもできる新しいアクティビティの開発も進めています。

競争の要素が強い定番のゲームでも、一捻り加えると協力ゲームに変換できるのも面白いもので、場作りのためのアクティビティの必要性和奥深さを感じています。

今後はオンラインアクティビティ研修の開催も考えております。園内研修前の場づくりなどでお悩みの方は遠慮なくご一報ください！

時を教えてくださいるもの

日本の智と慧

「今日は何月何日ですか」これが分からなくなると認知症が疑われます。逆に言うと、私たちは「今日が何月何日か」をしっかり確認しながら過ごしていると言えますが、問題はその背景です。「期限まであと何日」という管理カレンダーに、毎日睨まれているのでしょうか？

「二十四節気や七十二候」を伝えてくれる昔の暦は「日読み（こよみ）」と言って「そろそろこういう季節だよ」と時の移り変わりと「これから何をすればいいか」を教えてくださいる



べ切に追われるカレンダーではなく、移ろいゆく季節を楽しむ暦の中で、「とき」を味わいたいですね！

ものでした。それによって次の季節を迎える準備をしたり、農作業のタイミングを知ったりしたようです。これは、自然の変化とともに暮らすための「備えるという智慧」であり「時を知るといふ智慧」です。

カグヤでは先日「昔の田んぼ」と「暮らしフルネス農園」で田植えをしました。「立夏」は過ぎ、そろそろ蛙の音が聞こえ始めた頃でしょうか？

災害に備える

一期一会庵

コロナウイルスの世界での感染の動向を観察していると第4波や第5波など、新たな変異株が増えてきて感染拡大がまだまだ数年ほど続くことが予想されます。

歴史を省みると、感染は収束するのに数年は要します。

特に現代は、グローバル化で世界の交通網が一気に発達してあらゆる場所が繋がりましたからこの先も似たような新種のウイルスは出てくることは間違いありません。

もともと心配なのは、現在はコロナウイルスですが、この先、他の自然災害も加わるかもしれないことです。

人間は一つの災害に対応するだけでも精いっぱい、二つ以上の災害に対応するのはほぼ不可能です。感染症が流行しているときに、他の自然災害などが発生すれば悲惨な事態になります。地震などのあとに死者が増えるのはそのあとに感染症や飢饉などが発生するからです。

連鎖的に何かが発生する前に、何かしらの対処を早急にして次の「災害に備える」というのが大切なことだという智慧と教訓が歴史からわかれます。

そしてリスク分散、これは危機回避をするためにみんなで力を合わせて支えあう仕組みでもあります。

こういう今だからこそ、子どもたちのためにも私たちが自分の嗅覚、聴覚、触覚などの五感、そして手足と運を信じて歩いていく必要を感じます。

災害に備えるということにおいてもっとも大切なのは「思考を止めないための工夫」だと感じます。

現状に悲観的になって絶望するのではなく、みんなで今後の災害に備えようという取り組みで楽観的になりみんなで智慧を出し合えるように思えます。

まさに諺にある「備えあれば憂いなし」の心境です。必ず来ると思っている、準備することの中に活路が見いだせる気がしています。

私たちの実践や判断が、子どもたちの役に立てるように真摯に災害に備えていきたいと思えます。

編集後記



今年は、親子で初参加の仲間も！

今月も竹取新聞をご覧頂き、ありがとうございました。

今年度は迎えたと思ったらもう5月に。今年も桜の開花も早くたですが、田植えも例年より早く行う必要があり、私たちも4月末には千葉の「むかしの田んぼ」や福岡の「暮らしフルネス農園」で田植えを行いました！ またコロナ対策をしながら、豊稔を祈る御田植祭はしっかり行いつつも、いつもの昼食づくりは中止にした

りと、できることをできるメニューで行うことに。こんなご時世だからこそ、仲間や家族と共に季節の移ろいを実感できたり、自然との繋がりを感ぜられる機会がなおさらありがたく、とても楽しい時間を過ごすことができました。

今後も気を張った生活が続きますが、なるべく心も体もゆるくり休まるようそれぞれの場で工夫しながら、皆様元気に過ごしていきたいと思います。(宮前)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

